

【高等学校野球部春季大会優勝】

5月1日準決勝、2日決勝が行われた神奈川県高等学校春季大会で、桐光学園高等学校野球部が優勝したことは皆さんご存知のことと思います。私は、準決勝のときに応援に行きました。横浜スタジアムには、全校応援ではないので私服姿ではありましたが、多くの小学生の姿が見られました。現チームでは4期生としてこの小学校に在籍していた佐々木君がプレーしています。キャッチャーそしてキャプテンとしてチームの柱となり活躍しています。横浜スタジアムでの選手紹介で「4番キャッチャー佐々木君」というアナウンスを聞いたときは、それだけで感動しました。これまでも何人かの小学校卒業生が高等学校野球部に所属し、頑張っていたのですが、レギュラーになるのはなかなか困難なことだったようです。それだけに、彼の活躍は小学校の子どもたちにも大きな夢と希望を与えてくれるものになると思います。

これから、夏の甲子園出場を目指して試合に臨んでいくこととなりますが、これまで以上に小学校の子どもたちと保護者の皆さんには応援をお願いしたいと思います。

【感謝の気持ちを伝える】

・・・長距離トラックの運転手さんが、一晩中トラックを運転してまもなく目的地に到着しようとするときに、信号のない横断歩道を渡る小学生を見つけた。早く目的地に行きたい。トラックを停止させるのが面倒だ。そう思いながらタイヤがきしむ音を立てながら車を停止させた。そうすると、道路を渡り終えた子どもが、運転席を見上げて「おじさん、ありがとう」と笑顔で言った。そのとき、運転手さんは、穴があったら入りたかった。これからは、横断歩道の前ではスピードをゆるめ、安心して子どもが道路を横断できるようにしてあげよう。笑顔で渡ってもいいよというサインを送ろうと思った。・・・

これは私が朝会で子どもたちに話をした新聞の投書からの文章を簡単にしたものです。

私も車を運転する人間として、同じような気持ちになったことがあるのを思い出しました。そして、柿生駅近くの横断歩道で、近くの小学校に通学する子どもたちの「止まってくれてありがとう」という気持ちのこもった会釈に何度も自分の心を温かくさせられた経験や、道を歩いていて、横断歩道で止まってくれた車の運転手さんに対して自分でも何らかの気持ちの表現をしていることも話しました。

小学校では、4年生以上の子どもたちは毎日駅から学校までの間を歩いています。その通学路には信号のない横断歩道が2箇所あります。特に、第一グラウンドそばの横断歩道を渡るのはほとんどが小学生です。教員も横断歩道にいますが、どうも、子どもたちには自分たちの安全は教員が確保してくれるという意識が強いのではないかと感じるのがこれまでもありました。また、教員が様子を見ながら、車を停めてもらって子どもたちを横断させるときも、車を停止させてくれた運転手さんへの感謝の表現は少ないような気がしていました。

残念ながら、学校のそばの横断歩道では車の方から自発的に停止してくれることがあまりありません。子どもたち一人ひとりが感謝の気持ちを持ち、それを少しでも表現し伝えることができたなら、時間がかかるかもしれませんが、運転手さんたちが「桐光学園小学校の子どもたちのために車を停めてあげよう。」とってくれるようになるのではないかと考えます。

私たちは日々子どもたちの安全を第一に考えつつも、子どもたち一人ひとりの気持ちと行動が社会との結びつきを持っていることを伝えていかなければなりません。

【なかよし】

「友だちとなかよくする」というのは子どもの毎日の生活において、とても大事なことであり、学校が楽しい場かそうでないかを決定する大きな要因ともなります。

しかし、「なかよし」の意味は子どもの成長段階によってかなり違うことも私たちは理解しておかなければなりません。「一緒に遊ぶ」「一緒にいる」「話が合う」「相談できる」など、どれも「なかよし」であるための必要な条件となることがあります。

しかし、ときには「一緒にいなければなかよしでない」「一緒に遊ばないとなかよしでない」というような気持ちになってしまうことがあることも忘れてはいけません。ときどき自分がなかよしだと思っていた子が他の子と遊んだり、話をしたりすることを受け入れることができず、どうして自分じゃなくてあの子なの？と思ったり、友だちを取られてしまったような気持ちになってしまったりしてしまうことがあるようです。また、場合によっては、自分が友だちから冷たくされたと思ひ込み、私たちが予想していなかった行動（例えば、意地悪をしたり、悪口を言ったり）をとる子もいないわけではありません。低中学年の子どもたちに比較的多く見られるこのような現象ですが、私たちはそういう子どもの実態を受け入れながらも、これからどのような人間関係を作っていってほしいかという願いを伝えることも必要です。友だちと一緒にいるだけで心が落ち着くという子どもの心理を理解し、思い通りにならないことがあったときにどうしたらよいかを一緒に考えてあげることで少しでも子どもの不安を減らしてあげられるのではないかと思います。